

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200174		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	山梨ケアセンターそよ風		
所在地	山梨市上神内川15-5		
自己評価作成日	平成24年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者の出来る事や願いを尊重し、その利用者の持っている可能性を引き出していきたい。家族の願いや思いを受け止め、利用者に関する情報を家族・スタッフで共有し、ケアがしていけるように協力関係を築いていきたい。
 家族の希望と利用者の状態により、看取りケアを医師との連携のもと行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は道路に面した交通量の多い場所に位置し、デイサービスとショートステイの事業所が併設されている。近くには福祉専門学校や幼稚園、小学校、高等学校があり若い人達との交流の機会が多い。地域住民は高齢化が進み一般住民との交流は少ないが、ボランティアの訪問は多い。「利用者の思いを大切に」と管理者を中心として、掘り下げた認知症の勉強会を行い、ケアの質の向上に努めている。また、住み慣れたグループホームでの看取りを希望する利用者の受け入れも行っている。高齢の為、年々利用者のレベルが低下して介助量が増す中、管理者を中心として職員一同は温かな心で利用者とかい合い、利用者も落ち着いた日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 山梨ケアセンター そよ風

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ツツジの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度毎に理念の確認をスタッフ全員で行い、皆で作りあげた理念を基に日々ケアに活かしている。	年度毎に理念の確認をスタッフ全員で行い、皆で作りあげた理念を基に日々ケアに活かしている。	全職員の話し合いで作った理念が壁に掲げられている。年度初めのフロア会議で理念を確認して、日々のケアに繋げている。月1回のケア会議で実践状況の振り返りを行っている。	理念は日々のケアの基本である。現在の理念は少し長文である為、一般住民や学生達にも一読で分かる形に整理されると事業所への理解と信頼も一段と深まると思われる。文章の整理と、修正を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	区長さんを初め、近隣の幼稚園・小学校高等学校・介護専門学校・御菓子屋さん・歯医者さん・薬局・病院等と繋がりを持ち日常的に交流している。区の草取りにも積極的に参加している。	区長さんを初め、近隣の幼稚園・小学校高等学校・介護専門学校・御菓子屋さん・歯医者さん・薬局・病院等と繋がりを持ち日常的に交流している。区の草取りにも積極的に参加している。	自治会の草取りや河川清掃に職員が出労している。園児や小学生の訪問で歌や踊りを披露してくれた。高校生は訪問後日、手作りの座布団を届けてくれた。福祉専門学校の実習事業所となっている。地域の店を利用して地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高校生やアイリス傾聴ボランティアに認知症の話を行った。認知症の理解や支援の方法を地域の人に分かってもらう努力をしている。当地域の認知症の実習施設となっている。	近隣の高校生やアイリス傾聴ボランティアに認知症の話を行った。認知症の理解や支援の方法を地域の人に分かってもらう努力をしている。当地域の認知症の実習施設となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	看取りサービスの提供やそれに伴い利用者の重度化が進んでいる事等を伝え、医師との連携の基にそよ風のケアの実際を分かてもらい、様々な自立度にある利用者のケアがさらに充実するように工夫している。	看取りサービスの提供やそれに伴い利用者の重度化が進んでいる事等を伝え、医師との連携の基にそよ風のケアの実際を分かてもらい、様々な自立度にある利用者のケアがさらに充実するように工夫している。	家族代表は順番として、出席予定者の都合の良い日に会議を開催している。事業所の現状報告やスケジュール、また職員の採用や異動などを報告後出席者の意見や要望を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	居室に夜間鍵をかけてしまい困った事や、認知症の問題なのか性格的な問題なのか利用者のケアに関して迷った時など市町村の担当者と連携を密にとり、解決策を検討している。	市町村の担当者に居室の空き情報等を伝える際、グループホームのケアに関する事等を伝えたり、市町村からも入居に関する相談があり、市町村とは積極的に協力関係を築いている。	市の介護保険課、地域包括支援センターと困難事例の相談やアドバイスを受けて、利用者の紹介を受けるなど良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議やミーティングを通して身体拘束について検討し、約一年間の間に身体拘束をしないで済んだ1事例や身体拘束を解除した事例が計2例あり、今も身体拘束解除に向けて取り組んでいる事例がある。	フロア会議やミーティングを通して身体拘束について検討し、約一年間の間に身体拘束をしないで済んだ1事例や身体拘束を解除した事例が計2例あり、今も身体拘束解除に向けて取り組んでいる事例がある。	幻覚や妄想の強い利用者1名に夜のみ4点柵を使っている。職員によるスピーチロックがあった折は管理者がその場で指導している。ミーティングやフロア会議で振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議において虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に向けて取り組んでいる。気付かぬ内に虐待ではないかと感じる行為をしている職員に対しては管理者が定期的に面接を行なっている。	フロア会議において虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に向けて取り組んでいる。気付かぬ内に虐待ではないかと感じる行為をしている職員に対しては管理者が定期的に面接を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護の研修会に出席し、日常生活自立支援及び成年後見人制度について学び必要時活用できるようにしている。	管理者が権利擁護の研修会に出席し、日常生活自立支援及び成年後見人制度について学び必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には利用者や家族の不安や疑問点を尋ね説明を行い、理解してもらうように関わっている。	契約の締結、解約の際には利用者や家族の不安や疑問点を尋ね説明を行い、理解してもらうように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ツツジの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が出席し家族の意見を言う機会は設けている。家族によっては直接はっきり意見を言いたい家族や電話の方が本音と言える等様々であり、スタッフも家族へ情報の提供を行いケアに活かしている。	運営推進会議に家族が出席し家族の意見を言う機会は設けている。家族によっては直接はっきり意見を言いたい家族や電話の方が本音と言える等様々であり、スタッフも家族へ情報の提供を行いケアに活かしている。	推進会議時や家族の面会時に意見や要望を聞いている。枕の高さ、服の着せ方、体位変換やトイレ介助などケアに関する意見もある。必要な事、可能な事は職員が共有してケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー育成及び認知症介護の学習を継続して行ってきた。それにより介護のリーダーが職員の意見をまとめ、代表者や管理者に運営に関する意見を提案し反映できるようになっている。	リーダー育成及び認知症介護の学習を継続して行ってきた。それにより介護のリーダーが職員の意見をまとめ、代表者や管理者に運営に関する意見を提案し反映できるようになっている。	リーダー育成研修を行いリーダーが職員の意見を管理者に報告する。掃除機の買い替えや利用者のクッション購入の他、職員の待遇面の意見も出る。管理者に毎月一定額を使用できる権限があり必要な事は対応している。日頃より意見は出し易い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう、管理者や職員と話し合いを行い、重度化したユニットには1人一時的にスタッフを増員する等、職場環境の改善に配慮等してくれている。	代表者は職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう、管理者や職員と話し合いを行い、重度化したユニットには1人一時的にスタッフを増員する等、職場環境の改善に配慮等してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設内外の年間計画を立案すると共に、施設外への研修の参加を促し、働きながらトレーニングしていく事を進めており、今年度もグループホーム職員の施設外研修出席が3回目である。	代表者は施設内外の年間計画を立案すると共に、施設外への研修の参加を促し、働きながらトレーニングしていく事を進めており、今年度もグループホーム職員の施設外研修出席が3回目である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する事を進めてくれ、地域のネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問の活動を通してサービスが向上できるようにしている。今年度も毎月一回の活動へ参加している。	代表者は管理者や職員が同業者と交流する事を進めてくれ、地域のネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問の活動を通してサービスが向上できるようにしている。今年度も毎月一回の活動へ参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人の思いが表出出来るように、声かけや表情の観察等目配り・気配りを行い、困っている事を聞き努力をし、本人との関係が早期に築ける努力をしている。	サービスを導入する段階で、本人の思いが表出出来るように、声かけや表情の観察等目配り・気配りを行い、困っている事を聞き努力をし、本人との関係が早期に築ける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族の思いが表出できるように、表情等の観察を行い言葉に出来ない思いを察するように努めて、家族との関係が早期に築ける努力をしている。	サービスを導入する段階で、家族の思いが表出できるように、表情等の観察を行い言葉に出来ない思いを察するように努めて、家族との関係が早期に築ける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族の思いを聴き、同一建物内にあるデイサービス利用を提案したが、結果としてデイサービスの利用には到らなかったが、他のサービスも含めた対応に努めている。	サービスを導入する段階で、本人と家族の思いを聴き、同一建物内にあるデイサービス利用を提案したが、結果としてデイサービスの利用には到らなかったが、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ポジティブ・パーソンワークの実践により、利用者と共に喜怒哀楽を共有し、職員は本人を介護される側にはおかないで、暮らしを共にする者同士の関係を築くようにしている。	ポジティブ・パーソンワークの実践により、利用者と共に喜怒哀楽を共有し、職員は本人を介護される側にはおかないで、暮らしを共にする者同士の関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ツツジの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの支援は利用者にとって大きな喜びである。また家族も利用者の支えになっている事は家族にとっての喜びであると実感している。本人と家族の今までの関係を大切にし情報の共有をし共にケアをしている。	家族の支援は利用者にとって大きな喜びであり、家族にとっても利用者を支援する事は家族の喜びである事を実感している。今回看取りケアを実践した際も、本人を家族とスタッフ共に支え家族から喜びの言葉があった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を一部活用し、利用者の今まで大切にしてきた馴染みの場所や人との関係を断ち切らない為、以前住んでいた近所へ行ったり、行きたい所へ出かけている。	センター方式を一部活用し、利用者の今まで大切にしてきた馴染みの場所や人との関係を断ち切らない為、以前住んでいた近所へ行ったり、行きたい所へ出かけている。	「以前住んでいた家を見たい」との希望に職員が同行したり、鉢植えが好きな利用者の自宅の球根掘りに同行した。編み物、縫い物が好きな利用者が布団カバーを作るなどそれぞれ好きな事や趣味ができる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座る席を配慮し、利用者同士が係わり合い、支えあえるような支援をしている。また制作活動や趣味の活動等に際しては、利用者同士の関係性を配慮した関わりをしている。	利用者同士の関係を把握し、座る席を配慮し、利用者同士が係わり合い、支えあえるような支援をしている。また制作活動や趣味の活動等に際しては、利用者同士の関係性を配慮した関わりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所に退所した、利用者家族との関係は今でも継続しており、家で介護している家族の相談にのったり訪問したり、地域包括支援センターとも連携を持っている。	近所に退所した、利用者家族との関係は今でも継続しており、家で介護している家族の相談にのったり訪問したり、地域包括支援センターとも連携を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉でうまく表現出来ない利用者や認知面の問題で会話が不自由な方、又思いを表出できる方等様々な方々に対し、思いを察し声かけしたり、例えばトイレを希望した場合には本人の意向を大切に聞いている。	言葉でうまく表現出来ない利用者や認知面の問題で会話が不自由な方、又思いを表出できる方等様々な方々に対し、思いを察し声かけしたり、例えばトイレを希望した場合には本人の意向を大切に聞いている。	意思や意向が表出困難な利用者には、表情や動きから察知したり、家族より生活層などの情報を得て、本人の思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を理解する事は利用者理解するうえで欠かせない事であり、家族との関係性を築く中でこれまでの生活に関する情報を得て、利用者の支援に活かしている。	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を理解する事は利用者理解するうえで欠かせない事であり、家族との関係性を築く中でこれまでの生活に関する情報を得て、利用者の支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者に日々チームとして関わる中で、出来ないことと決めつけるのではなく、日々関わる中で、今日と昨日の違い等細かな把握に努めている。出来ることを見つけた時にはスタッフ全員で喜びを分かち合っている。	一人ひとりの利用者に日々チームとして関わる中で、出来ないことと決めつけるのではなく、日々関わる中で、今日と昨日の違い等細かな把握に努めている。出来ることを見つけた時にはスタッフ全員で喜びを分かち合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一人ひとりの利用者のケア会議をスタッフ全員で行い、又担当者会議を定期的に行い、利用者の変化や新たな課題等を発見し、家族との情報の交換にも力を入れ、現状に即した介護計画立案に向け努力している。	毎月一人ひとりの利用者のケア会議をスタッフ全員で行い、又担当者会議を定期的に行い、利用者の変化や新たな課題等を発見し、家族との情報の交換にも力を入れ、現状に即した介護計画立案に向け努力している。	職員全員参加で毎月ケア会議を行い、モニタリングをして、状態の変化に沿った、介護計画へと修正している。3か月に1度担当者会議をしているが、利用者の状態が安定している時は職員のみ会議としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見て、読んで役に立つ記録を書くをモットーに日々の記録は、利用者のトピックスや経過を追う為の必要事項を皆で取り決め、職員間の情報の共有に役立つ記録を記載するようにしている。	見て、読んで役に立つ記録を書くをモットーに日々の記録は、利用者のトピックスや経過を追う為の必要事項を皆で取り決め、職員間の情報の共有に役立つ記録を記載するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ツツジの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。利用者・家族と話し合いサービスの利用を促したが、結果としてサービス利用には到らなかった経緯がある。	その時々利用者が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。お化粧品がなくなったというような場合はお化粧品を買いに行けるようその日の業務調整を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・民生委員・隣の耳鼻科・近所の歯医者さん・薬局・幼稚園・高等学校・ボランティアの方々との力を借りている。今回傾聴ボランティアの方々を元勤務していた職員との関係で縁を頂いた。	包括支援センター・民生委員・隣の耳鼻科・近所の歯医者さん・薬局・幼稚園・高等学校・ボランティアの方々との力を借りている。また今回傾聴ボランティアの方々を元勤務していた職員との関係で縁を頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望がある場合は本人と家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるように支援している。必要時認知症専門医を家族と受診したり、眼科や歯科等の受診ができるように支援している。	かかりつけ医の希望がある場合は本人と家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるように支援している。必要時認知症専門医を家族と受診したり、眼科や歯科等の受診ができるように支援している。	以前からのかかりつけ医を希望する時は家族対応を基本としている。牧丘病院の医師が月一回往診に訪れ、利用者の健康管理を行っている。必要時眼科、歯科、精神科などの受診も支援している。受診後の情報は記録して職員は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師である事から、介護職との連携を密にし情報を共有することにより、利用者が適切な医療や看護が受けられるようにしている。	管理者が看護師である事から、介護職との連携を密にし情報を共有することにより、利用者が適切な医療や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は看護サマリーを記載し、利用者に適したケアが受けられるようにしている。またリロケーションダメージを最小限にする為に短期間の退院が出来るように病院関係者と話し合いを行ったり、入院中は面会に行くようにしている。必要であれば外泊も行う。	入院する際は看護サマリーを記載し、利用者に適したケアが受けられるようにしている。またリロケーションダメージを最小限にする為に短期間の退院が出来るように病院関係者と話し合いを行ったり、入院中は面会に行くようにしている。必要であれば外泊も行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人の看取りの希望があれば、早期の段階で家族・かかりつけ医師と今後の意向を確認し、日々変化する状態に対し家族・医師・看護師・職員で情報の共有を緻密に行い、日々の終末期ケアで何をするか具体的に検討しチームで支援している。	看取りの希望があれば早期の段階で家族・かかりつけ医師・看護師で今後の意向を確認し、家族・医師・看護師・職員で情報の共有を緻密に行い、終末期ケアを実践している。今回看取りケアを行い、家族より喜びの言葉が数多く聞かれた。	希望があれば 看取りケアをする事を事業所の方針としている。利用者の状況を見ながら家族の考え、方針を確認して 看取り同意書にサインももらっている。その後、医師、看護師、職員で体制の確認など情報を共有する。最近のケースでも 良い終末を過ごせた、と家族より感謝の言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅱを受講しており、新人スタッフも含め今後定期的に受講予定。利用者の急変に備え予測される急変時の対処方法については職員が実践できるようにしている。	定期的に普通救命講習Ⅱを受講している。新人職員もいる為、今後受講予定。利用者の急変に備えて、予測される急変時の対処方法については職員が実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練を実施し、いざという時に備えている。地域の消防団の協力関係は築いている。食料や飲料等はグループホーム独自としても備蓄している。	昼夜の避難訓練を実施し、いざという時に備えている。地域の消防団の協力関係は築いている。食料や飲料等はグループホーム独自としても備蓄している。2階である為、歩行出来ない利用者の避難には工夫している。	月1回の訓練及び、年1回消防団が来て避難や夜間想定訓練をショートステイの事業所と合同で行っている。歩行不安定な利用者を2階から下ろす折、ダンボールに乗せて下ろせるソリを作った。地域住民の多くが高齢の為、災害時地域の協力は望めない。	災害の種類や規模を予測する事は難しい。夜勤をしている職員全員が夜間想定訓練を体験して備えてほしい。また連絡網訓練も予告しての訓練と予告無し訓練が実施されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ポジティブパーソナルワークの尊重を学習し、日々のケアでも利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。今後も尊重とプライバシーの確保に関しては継続的な学習が必要と考える。	ポジティブパーソナルワークの尊重を学習し、日々のケアでも利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。今後も尊重とプライバシーの確保に関しては継続的な学習が必要と考える。	管理者は水野裕氏の本を教材として勉強会を行っている。名前を呼ぶ時は姓としている。トイレ介助時に、声掛けが不適切や、ドアが開放のままの時は、管理者がその場で指導している。書類管理や、守秘義務も徹底されている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ツツジの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が喋れない利用者や、思いをうまく表現出来ない利用者に関しては、声かけをしたり確認の言葉がけをしたり、言いたいことを察して、何をしたいのか等自己決定できるように支援している。	言葉が喋れない利用者や、思いをうまく表現出来ない利用者に関しては、声かけをしたり確認の言葉がけをしたり、言いたいことを察して、何をしたいのか等自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物等、希望のあった時には利用者の思いを聞き入れ、その日をどのように過ごすか話し合いを行い、その日の過ごし方を利用者とともに決めている。	入浴や買い物等、希望のあった時には利用者の思いを聞き入れ、その日をどのように過ごすか話し合いを行い、その日の過ごし方を利用者とともに決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やお化粧の購入、髪を染めるなどその人らしい、おしゃれや身だしなみができるように支援している。	お化粧品やお化粧の購入、髪を染めるなどその人らしい、おしゃれや身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものとなるよう利用者のできる能力を活かし、職員と共に食事を作ったり、後片付けをしたりしている。	食事が楽しみなものとなるよう利用者のできる能力を活かし、職員と共に食事を作ったり、後片付けをしたりしている。	メニューは、管理栄養士が作る。朝の食材はホームで買出しに行き、歩行可能な利用者を連れて行く。昼、夕の食材は、そよかぜの厨房より1、2階のユニットに分けて届けられ、それぞれのキッチンで職員が作る。皮むき、きざみなど出来る利用者が作業に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や体重の増減、好み等を配慮し食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して摂取出来るようにしている。	一人ひとりの状態や体重の増減、好み等を配慮し食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して摂取出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員一人ひとりが認識している。毎食後の口腔ケアを口腔の状態や利用者の出来る能力に応じて、口腔ケアを行っている。	口腔ケアの重要性は職員一人ひとりが認識している。毎食後の口腔ケアを口腔の状態や利用者の出来る能力に応じて、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄することを基本に一人で立つ事の出来ない利用者はスタッフ二人でトイレでの排泄を試みている。一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツを使用する場合にはその利用者に適したオムツの選定をしている。	トイレで排泄することを基本に一人で立つ事の出来ない利用者はスタッフ二人でトイレでの排泄を試みている。一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツを使用する場合にはその利用者に適したオムツの選定をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者の便秘の原因を把握し、個々に合った便秘に対する支援を行なっている。具体的にはバナナ・牛乳・好みの水分量等の調整を行なっている。又必要時腹部マッサージを行なっている。	個々の利用者の便秘の原因を把握し、個々に合った便秘に対する支援を行なっている。具体的にはバナナ・牛乳・好みの水分量等の調整を行なっている。又必要時腹部マッサージを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間を除いて、入浴の希望は聞くようにしている。また男性スタッフの介助を好まない場合は女性スタッフが対応するように調整している。入浴時間は健康に影響を及ぼさない範囲でゆっくり本人のペースで入浴している。	夜間を除いて、入浴の希望は聞くようにしている。また男性スタッフの介助を好まない場合は女性スタッフが対応するように調整している。入浴時間は健康に影響を及ぼさない範囲でゆっくり本人のペースで入浴している。	週3回の入浴を基本としており、レベル低下で一般浴が困難な利用者はデイサービスの機械浴での入浴を支援している。入浴を拒否する利用者にも無理強いせず、話を聴いたり、シャワー浴や更衣になる時もある。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ツツジの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの状態により、疲れたような表情をしている時、自分から思いを表出できない時等、声かけて休む事を勧めたり、また寝たり、起きたりするの本人の思いや状況を見極め支援している。	利用者一人ひとりの状態により、疲れたような表情をしている時、自分から思いを表出できない時等、声かけて休む事を勧めたり、また寝たり、起きたりするの本人の思いや状況を見極め支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりが確実に内服出来るようなケアを行なっている。内服の効果が出現しているのか、副作用が強いのか等スタッフ全員で確認している。看護師が現場にいるので内服の効果等介護者との連携をとっている。	利用者一人ひとりが確実に内服出来るようなケアを行なっている。内服の効果が出現しているのか、副作用が強いのか等スタッフ全員で確認している。看護師が現場にいるので内服の効果等介護者との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコを吸いたい希望のある利用者にはタバコが吸えるようにしている。また、利用者一人ひとりにあった役割をスタッフと共に行い、楽しみや達成感などを共有している。	利用者の能力に応じ、外へゴミを捨てる時にスタッフ共に出かけ気分転換になったり、掃除機やモップを掛けたり調理をしたり日々の役割となり、張り合いとなり喜びを感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得て、本人の希望に沿い日常的に外出の支援をしている。	本人の希望に沿い、家族の協力も得て戸外へ出かけられるようにしている。	利用者個々の希望で生活用品など買い物の同行支援をしている。春、夏、秋と季節に応じて花見や公園などに行く。帝京福祉専門学校の学生実習日に併せてバラ園へ行った。玄関先のポットで花を育てながらの外気浴や、家族と共に外出する利用者も居る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ事により安心感を感じている事を職員は理解している。買い物の希望がある時には職員と話し合いを行い、出掛けている。預かり金に関しては家族・本人と話し合いを行い、規定に基づき管理している。	利用者がお金を持つ事により安心感を感じている事を職員は理解している。買い物の希望がある時には職員と話し合いを行い、出掛けている。預かり金に関しては家族・本人と話し合いを行い、規定に基づき管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をしたい時には電話が出来るようにプライバシーに配慮し支援している。また手紙も同様に自由にやり取りができるように支援している。	電話をしたい時には電話が出来るようにプライバシーに配慮し支援している。また手紙も同様に自由にやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の季節感を感じる事の出来る、大きな壁掛け式の貼り絵等の制作を利用者と共にしている。グループホームで利用者と共に育てている季節の花々を常にテーブルや玄関、洗面所等に飾り居心地良く過ごせるような工夫をしている。温度と湿度の管理も行なっている。	毎月の季節感を感じる事の出来る、大きな壁掛け式の貼り絵等の制作を利用者と共にしている。グループホームで利用者と共に育てている季節の花々を常にテーブルや玄関、洗面所等に飾り居心地良く過ごせるような工夫をしている。温度と湿度の管理も行なっている。	玄関を入ると、1、2階それぞれのホーム職員の写真入りの額が下げられている。どちらのフロアも中央に食事用のテーブルと、程よい位置にテレビやソファや高級感のある椅子が配置されている。利用者と共に作成した季節感溢れる大きな貼り絵が所々に飾られ、心和む場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたりして気分転換が出来るような居場所の工夫をしている。	共用空間にソファを置いたりして気分転換が出来るような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中には、利用者や家族と相談して使い慣れた、化粧品や夫の遺影や家族の写真・テレビ等を置き、少しでも居心地良く過ごせるように工夫している。	居室の中には、利用者や家族と相談して使い慣れた、化粧品や夫の遺影や家族の写真・テレビ・テーブル等を置き、少しでも居心地良く過ごせるように工夫している。	ベッドと大きな収納戸棚が備え付けられており、部屋の奥にカウンター風の多用途デスクがある。利用者それぞれがテレビや衣装掛けなど、自分に必要な品々を持参して、落ち着いて過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などところに手摺りを付け、カレンダーを用意する、時計を設置、床の安全を配慮する、トイレとはっきり明示する、各居室が分かるような工夫等している。	必要などところに手摺りを付け、カレンダーを用意する、時計を設置、床の安全を配慮する、トイレとはっきり明示する、各居室が分かるような工夫等している。		